

授業科目名	言語表現論	担当教員	内田 樹
必修の区分	選択		
単位数	1単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1・2年 第2クォーター		
講義内容	<p>言語とは何か、表現とは何かについて、実際にいろいろな文章を素材にして、できるだけ根源的に考えてみたいと思います。できれば記号論や言語学についての基礎的な知見も見につけて欲しいと思います。受講生にも適宜課題を出して、表現することを実践してもらおうつもりです。</p>		
到達目標	<p>「自分のヴォイスを見出すこと」、それが到達目標です。もちろん、遠く高い目標なので、授業を聴いただけで「はい、見つけました」というような簡単な話にはなりません。でも、それが目標です。</p>		
授業計画	<p>1 この授業の目的について (オリエンテーション) 2 理論編 1 (言語学と記号論の学説史など) 3 理論編 2 (ソシュールのアナグラム論など) 4 理論編 3 (バルトのエクリチュール論など) 5 理論編 4 (村上春樹の「地下二階」論と「世界文学」の条件についてなど) 6 理論編 5 (身体と言語) 7 実践編 1 (説明すること) 8 実践編 2 (主語と人称) 9 実践編 3 (「彼/彼女」をして語らせること フェミニズム言語論) 10 実践編 4 (物語を書いてみる) 11 実践編 5 (voice とコミュニケーション) 12 総括 ここに書いたのは「とりあえずそういうトピックから授業を始めるつもり」というひとつの目安です。受講生の関心や進度に即してそこから話はたぶんあらぬ彼方に広がってゆきます。</p>		
事前・事後学習	<p>できたら下に掲げた参考文献を読んでおいてください。</p>		
テキスト	<p>特にありません。</p>		
参考文献	<p>僕が言語表現について最も影響を受けたのは橋本治・村上春樹・高橋源一郎の三人です。この三人の書いたものなら何でもいいです。読んでおいてくれるとうれしいです。</p>		
成績評価の基準	<p>「自分の声」を見出す作業は相対的な優劣を競うものではないので、受講姿勢と課題への取り組みについて評価したいと思います。</p>		
履修上の注意 履修要件	<p>とくにありません。</p>		
実践的教育	<p>該当しない。</p>		
備考欄			